此國は釋迦如來の御所領。佛の左右臣下たる大梵天王第六天の魔王にたはせ給て、大海の死骸をとどめざるがごとく、❶寶山の曲林をいとうがごとく、此國の謗法をかへんとをぼすかと勘申なりと申。この上捨てられて候四十餘年の經々の今に候いかになんど、俗難せば返吉(詰)して申べし。塔くむあししろ(足代)は塔くみあげては切すつるなりなんと❷申べし。此譬へは玄義の第二の文に今大教若起方便教絶と申釋の心なり。妙と申は絶という事、絶と申事は此經起ば已前の經々を斷止と申事なるべし。正直 捨方便の捨の文字の心、又嘉祥日出ぬるは星かくるの心なるべし。但 爾前の經々は塔のあししろなれば切すつるとも、又塔をすり(修理)せん時は用べし。又切すつべし。三世の諸佛の❸說法の儀式かくのごとし。又俗難云、慈覺大師の常行堂等の難これをば答べし。內典の人外典をよむ、得道のためにはあらず、才學のためか。山寺の小兒の倶舍の頌をよむ、得道のためか。傳教・慈覺は八宗を極給へり。一切經をよみ給。これみな法華經を詮と心へ給はん梯磴なるべし。又俗難云、何にさらば御房は念佛をば申給ぬ。答云、傳教大師は二百五十戒をすて給。時にあたりて、法華圓頓の戒にまぎれしゆへなり。當世は諸宗の行多けれども、時にあたりて念佛をもてな

❶第11紙15行(裏) ❷〔と〕一(裏) ❸第12紙15行(裏)